

サービスアビリティコネクタエラーの修正"; 分析を完了できません"

内容

[はじめに](#)

[問題：通話履歴を解析する際に「解析を完了できません」\(CCUC\)](#)

[解決策：Signal Distribution Layer\(SDL\)トレースファイルの数を増やす](#)

[キャプチャされた現在のログ時間枠の計算方法](#)

[使用可能なディスク領域（ロギングパーティション）に基づいてログファイルの最大数を計算する方法](#)

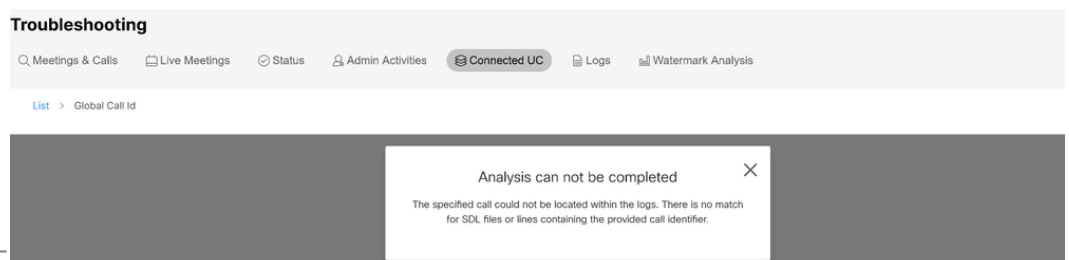
[関連情報](#)

はじめに

このドキュメントでは、CCUCのサービスアビリティコネクタエラー「Analysis can not be completed」を修正する方法について説明します。

問題：通話履歴を解析する際に「解析を完了できません」(CCUC)

コールログを収集してCloud Connected Unified Connector(CCUC)でView Analysisをクリックすると、コール分析ウィンドウが表示され、コールログの分析後に「分析を完了できません。指定された呼び出しがログ内に見つかりませんでした。指定されたコールIDを含むSDLファイルまたは回線が一致しません。」



Control Hub Connected UCの工
ラーメッセージ

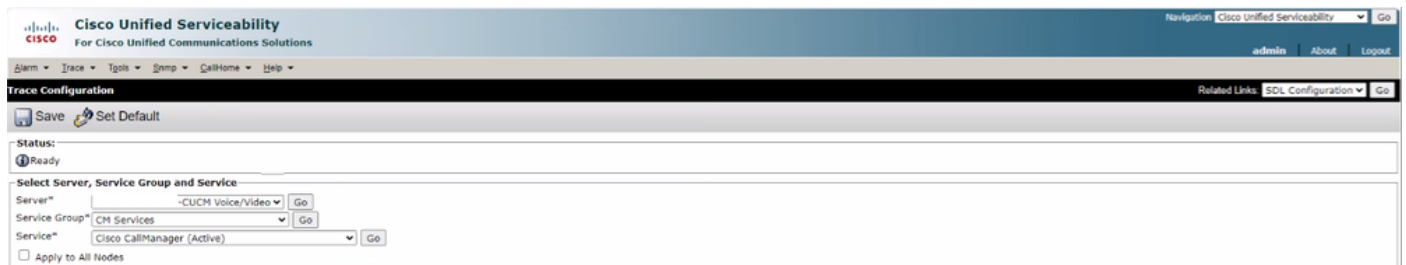
このエラーは、ログが上書きされ、使用できなくなったことを意味します。

解決策：Signal Distribution Layer(SDL)トレースファイルの数を増やす

この問題を解決するには、Cisco Unified Call Manager(CUCM)のSDLトレースファイルの数を増やして、ログのタイムウィンドウカバレッジを増やします。

SDLファイルの数を増やすには、次の手順を実行します。

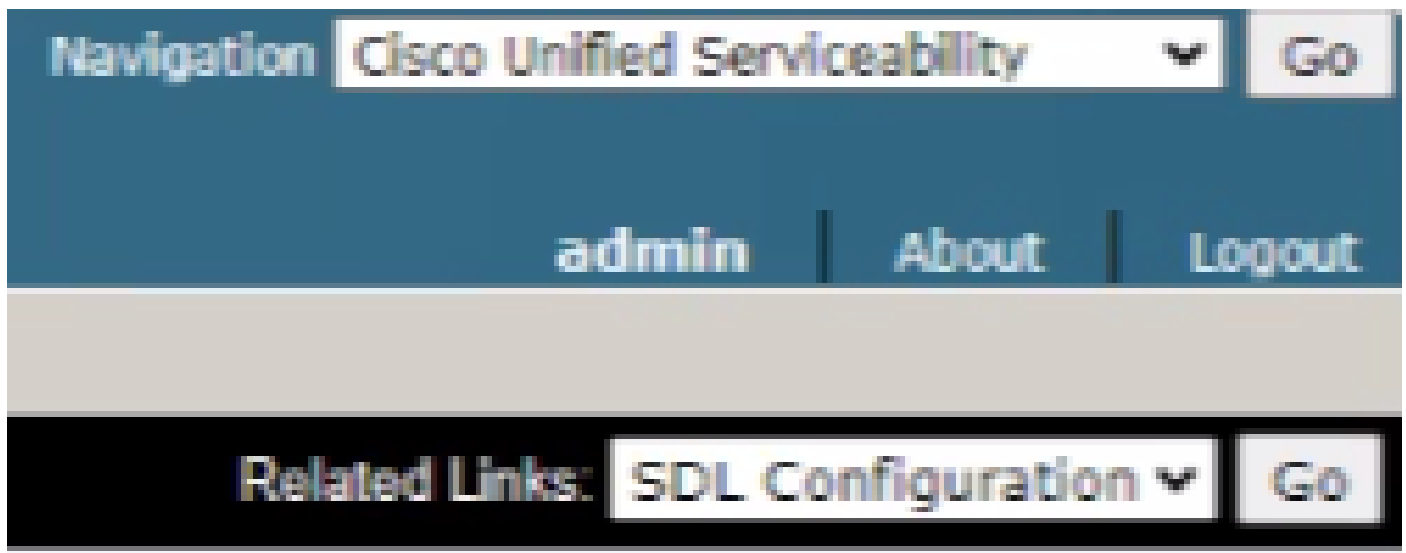
1. CUCM Administrationにログインして、Navigationの下でCisco Unified Serviceabilityを選択します。
2. Trace > Configuration > Service Group: CM Services > Service: Cisco CallManager.



CUCM Trace Configuration

の順にクリックします。

3. 「関連リンク：SDL設定」をクリックします。



SDLの設定

4. 「トレース出力設定」>「ファイルの最大数」までスクロールします。

Trace Output Settings

Maximum No. of Files*

Maximum File Size (MB)*

トレース出力設定

5. ファイル数を増やします。
6. Saveをクリックします。

キャプチャされた現在のログ時間枠の計算方法

コール処理ノードで、CLIコマンドfile list activelog cm/trace/ccm/sdl date detailの出力をキャプチャします。

最初のファイルと最後のファイルのタイムスタンプの差から、ログが使用可能でコールを分析できる期間がわかります。

使用可能なディスク領域 (ログGINGパーティション) に基づいてログファイルの最大数を計算する方法

各呼処理ノードでのCLIコマンドshow statusの出力を取得します。

Disk/loggingに使用できる空き領域がどれだけ増えたかを確認できます。

これに基づいて、ログGINGパーティションに書き込めるファイルの数を計算できます。

関連情報

- [サービスアビリティコネクタの導入ガイド](#)

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。